

# 業務そくほう

日本貨物鉄道産業労働組合

2023. 3. 12

No. 689

## 2023春闘交渉 会社の考え

本部は、3月10日、春闘交渉「会社の考え」を行いました。以下、報告します。

**会社・ベアについては実施したいと考えている。金額については昨年以上の提示ができるよう引き続き議論していく。**

**組合・ベアを実施したい考えは評価するが、生活水準を上げるためには大幅な改善が必要であり、誠意ある回答を強く求める**

### 『会社の考え方』

今年度は、「JR 貨物グループ長期ビジョン 2030」で掲げた、持続可能な社会の実現に向け、社会に提供する「物流生産性の向上」、「安全・安心な物流サービス」、「グリーン社会の実現」、「地域の活性化」の4つの価値を生み出すため、「JR 貨物グループ中期経営計画 2023」のもと、コーポレート・ガバナンスと安全を基盤に、鉄道ロジスティクス事業では、貨物鉄道事業の役割発揮と、さらなる収益性の向上に取り組むとともに、収支改善に向けた取組みの継続・強化による収益性の向上、総合物流企業グループへの進化、不動産事業では利益拡大等の取り組みを進めてきた。

わが国経済は、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中ではあったが、2022年度はこれまで感染拡大期にあっても、2022年度までのような政府による大規模な行動制限は行われなかったものの、年度を通じてコロナ禍前の輸送量に比較して概算で10%減で推移した。これは、コロナ禍の影響長期化により、人々の生活・行動様式や企業生産活動等が大きく変容し、それに伴い輸送需要も構造的に変化していることが要因と考えられる。また、長期化するウクライナ情勢の深刻化に起因する原油価格や資源価格の上昇、半導体の供給不足による生産活動の停滞、さらには、世界的なインフレに起因する急激な円安により先行き不透明な状況が続く結果となった。

また、輸送動向では8月の北海道・東北・北陸地区を中心とした大雨の影響により、一部不通区間が生じたことで多くの貨物列車が運休を余儀なくされ、ご利用のお客様に多大なご迷惑をお掛けすることとなった。この間、当社グループでは利用運送事業者各社や行政機関の協力のもとトラック・船を活用した代行輸送を実施したが、大幅な減送となった。コンテナは新型コロナウイルス感染症及び原材料高騰に伴う物価上昇による消費低迷に加え、12月の新潟地区を中心とした低気圧接近による風雪害等の影響を受け、自動車部品、他工業品、家電・情報機器を除く品目で前年を下回り、食料工業品は10月に各社で実施された値上げの影響により需要が減少し、減送となった。一方で、不動産事業では、2022年2月に賃貸開始したフレンチ経営が順調に稼働していること、2022年9月から引渡開始となった新小岩の分譲マンション販売が好調であることなどによりほぼ計画とおりで推移できた。

---

このような状況ので、昨日時点、1月期計画に対して取扱い収入が約▲16億円強となっている。また、様々な要因による影響で、物価上昇及び水道光熱費が増加については、これだけ報道等でも取り上げられ、会社としても十分認識している。会社経営、未来の当社運営に悪影響を及ぼさない範囲で、どこまで社員の要望に応えられるかをしっかり考えなければいけないと議論を重ねているところである。

以上、色々申し上げたが、現時点の会社の考えとしては「ベアについては実施したいと考えている。金額については昨年以上の提示ができるよう引き続き議論していく」  
本日時点でお伝えできる会社の考え方は以上である。

**組合・「昨年以上のベアを実施したいと考えている」と言ったが、昨年は「定額ベア」でなく「定率ベア」であったため、基本給によって差があった。具体的な数字を明らかにされたい。**

**会社・昨年は0.1%、平均300円のベアであった。現段階で具体的な数字は明らかに出来ない。繰り返すが、現段階では「ベアについては実施したいと考えている。金額については昨年以上の提示ができるよう引き続き議論していく」ということである。**

**組合・現時点、諸手当改善で示せるものはあるか。**

**会社・現時点でお伝えできるものはない。**

**組合・「ベアを実施したい考えがある」ことについては評価したいが、大幅なベア実施をしなければ生活レベルは向上しない。生活レベルが向上しなければ、業務にも支障を及ぼしJR貨物のブランド力は向上しない。ブランド力が向上しなければ、世間から見放されて企業としての価値を失うことになる。会社の状況が厳しいことは理解しているが、この難局を労使が一体となって乗り越えるためにも、将来を見据え「人への投資」を積極的に行うべきであり、我が組織は「定額ベア」を強く求めていることを改めて伝えておく。**

**本日、会社の考えを聞いたが、私達が求めるものと乖離があり、組合員の悲痛な叫びを、再度経営陣に伝え、回答日には誠意ある回答を強く求めたい。**

**会社・主張は受け止め、引き続き社内議論をして回答をしたい。**

以上

---